

令和5年度 第5学年 授業改善推進プラン

台東区立蔵前小学校

1 児童の状況及び実態

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・(台東区総合学力調査(前年度の理解度)から)目標値を10ポイント以上上回り、理解力の高い児童が多い。ただ、小数の仕組みの理解、分度器の中の目盛りの読み取りでの正答率が低い。 ・(1学期の授業から)基本的なことの理解はできているが、「小数第二位」を「小数第2位」と表記する、合同な三角形の対応する表記の仕方(三角形ABCに対応している三角形は三角形FDEが正解だが、三角形DEFとする等)等、細かな算数的な表記まで理解している児童が少ない。 ・半数以上の児童が中学受験のための塾に通っている。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・台東区総合学力調査の結果によると、目標値は約7ポイント上回っている。校内の正答率は前年度と比べると約4ポイント上がっており、基礎問題と活用問題で分けると基礎問題についてはあまり変化は無いが、活用問題の正答率が9.4ポイント上昇している。観点別の正答率では、知識・技能が前年度よりも約4ポイント下がっているが、思考・判断・表現が13ポイント上がっている。 ・基礎的な学力の定着は見られるが、「月と星」や「自然の中の水」などの生命・地球の領域における理解が目標に達していない。

2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	○知識及び技能 ・計算力、公倍数・約数などの基本的な知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線や図などを自分で作成しながら理解していくように指導する。 ・さわやかタイムの時間を活用し、基本的な計算の時間を取る。
	○思考力・判断力・表現力等 ・文章から場面を想像し、基準量、比較量などを思考する力。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の中の数の関係の把握、立式ができるように数直線を活用できるように指導する。 ・習熟度に応じて指導の時に算数・数学的な表記の意味、表記の仕方まで指導する。
	○学びに向かう力、人間性等 ・既習事項を基に、新たな問題を解決しようとしている態度や友達の考えを取り入れながら主体的に問題解決しようとする態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分確保し、自分の考えを言葉や図や、わかりやすい方法で表せるようにする。 ・考えを共有する時間もたくさんとり、友達の考えもノートに書いたり、理解したりする時間もとり、考え方をたくさん出せるようにする。
理科	○知識及び技能 ・観察、実験などに関する基本的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の意味や、事象の様子を自分の言葉で確実にノートに記入していくように指導する。 ・振り返りプリントなどを活用して、知識を定着させる。
	○思考力・判断力・表現力等 ・条件制御に基づきながら実験を考えるなどの問題解決の力	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果の見通しをもって実験に臨み、複数の情報を分析して結果の考察をまとめる指導を徹底する。 ・条件を制御して、実験の仕方を考えられるようにする。 ・可視化できない事象を、「見える化」して表現できるように指導する。
	○学びに向かう力、人間性等 ・自分で疑問を見つけ、実験を考えながら問題解決しようとする態度	<ul style="list-style-type: none"> ・導入を工夫し、それぞれの単元への関心を高めて、児童が主体的に臨めるようにする。 ・学習したことを身近なものとして受け止め、実生活との繋がりを捉えられるようにする。